

## 農業を通して国際協力に尽力



JICA青年海外協力  
隊でフィリピンに派遣

大島 寿子さん 25歳  
上小出町三丁目

JICAの青年海外協力隊の野菜栽培指導員として、6月27日からフィリピンに派遣された大島さん。派遣期間は2年間。100人の農家に有機農業による野菜栽培を指導する。

「英語以外の言葉や住む所など行ってみないと分からないことも多いですが、できる限り現地の農家の人たちのために頑張ります」

大学で国際協力などについて学んだこと、栃木県で野菜栽培のボランティアに参加したことが指導員を目指すきっかけに。本格的に農業について学ぶため、大学卒業後に農業学校へ入学し指導員になるため技術を磨いた。「フィリピンの農業でよく使われている化学肥料から有機肥料に替える

ことで支出を抑えられると考えています。現地の人の利益につながって喜んでもらえたらうれしいですね」

現地の人々と交流を深めたり、マリンスポーツに挑戦したりしたいと新しい生活にも期待を膨らませる。「コミュニケーションを深めることは何よりも大切だと思います。フィリピンの国歌はもう覚えました。現地での言葉はこれから必死に覚えな

いと。子どもたちと仲良くなったら日本の遊びを教えたいですね」  
帰国後は経験を生かし、食や農業に関する仕事に携わりたいと話す大島さん。今後も農業を通して日本とフィリピン、そして世界との架け橋となるような活躍に期待したい。

## 前橋

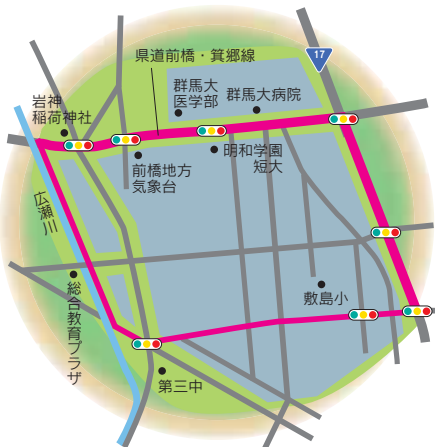


ウォーカー  
敷島・岩神地区

## 学問が溶け込むまち

今回は岩神町三丁目の広瀬川のほとりにある総合教育プラザからスタートです。球体のオブジェが目印のこの建物。中にはコミュニティセンターや図書館、視聴覚ライブラリーなどの施設が入っていて、学びと交流の拠点になっています。

広瀬川を北に進むと、県道前橋・箕郷線沿いに、赤い鳥居が目印の岩神稲荷神社が見えてきます。ここには飛石といわれる大きな岩が祭られています。国の天然記念物に指定されているこの岩は、いくつかの岩石が積み重なったように見えますが、実は一つの塊。地下に埋まっている部分も含め



自然の力を物語る飛石

ると、高さは20メートルに達するとみられています。神社から東に約50メートル。道路の南側に見える建物が前橋地方気象台（☎234-5022）です。ここでは、天気や気温、降水量、風向きなどを観測するとともに、国内外の気象データの解析に基づいて、県全体の天気予報を発表しています。また、事前に予約することで、平日の施設見学ができます。

緑が鮮やかな群馬大病院前を通り過ぎ、南へ進むと見えてくるのが敷島小です。明治6年創立のこの小学校には、卒業生から贈られたカイノキが植えられています。孔子の墓の回りに植えられていることから学問の聖木ともいわれるカイノキは、東京都の湯島聖堂や栃木県の足利学校など儒教と関係の深い場所に多く見られます。子ども



学問の聖木カイノキ（中央）

たちに、学問にいそしんでほしいという思いが込められているのでしよう。  
学問が息づく敷島・岩神地区。梅雨の晴れ間に歩いてみませんか。

## クローズアップ



### 被災地復興へ市民の力

東日本大震災で大きな被害を受けた福島県いわき市を支援するため、市民ボランティアを派遣しています。日程は6月4日から7月9日までの土曜6回の予定。一日も早い復興を目指し、がれきの撤去や側溝の泥かきを中心に、力を合わせて活動しています。



### 親子でふれあい農業体験

6月11日、富士見町石井で親子農業体験を開催。参加した親子連れは、農家の人たちから手ほどきを受けながら、サツマイモの苗植えや落花生の種まきを行いました。作業の後には新鮮な浅漬が振る舞われ、今から秋の収穫がより一層楽しみになりました。



### 大室公園で歴史を感じる

6月12日に大室公園で古墳群の公開イベントを開催。古墳見学会や勾玉作り、火おこし体験、スタンプラリーなどに多くの人々が参加しました。座繰り体験では、実際にハンドルを回して生糸の取り出しに挑戦。みんなで楽しく歴史や伝統技術を学びました。



### 被災地へ願いを届けたい

東日本大震災の被災地を応援するための折鶴作成コーナーを、6月22日まで市役所、前橋プラザ元気21および商工会議所に設置しました。作成された折り鶴や応援メッセージが書かれた短冊には、被災地復興への市民の願いが込められています。